



交通安全教育DVD

# 危険です！ 無謀自転車・携帯使用

指導ガイド



安全運転をつくろう。

自動車安全運転センター



## はじめに

自動車安全運転センターでは、交通安全に関する様々な取り組みを行っています。その活動の一環として、交通安全教育DVDを制作しております。

今回は「危険です！ 無謀自転車・携帯使用」と題して、「自転車との事故防止」と「携帯電話使用の危険」の2つを取り上げました。「自転車との事故防止」は、さらに「信号無視自転車との事故防止」と「自転車との出会い頭事故防止」の2つのテーマに分かれています。

今回のDVDは、交通安全教育機関等や個人での利用の他、事業所における交通安全教育の場で活用していただくことを念頭に置いて制作しました。集合の交通安全教育における視聴覚教材として利用していただくほか、朝礼等で分割して視聴しやすいように5分前後のチャプターに分ける等の配慮をしました。全編を連続して視聴するだけでなく、5分あるいは10～15分程度のブロックに分けて教育に活用する等、様々な交通安全教育での利用が可能ないように工夫しています。

この「指導ガイド」は、事業所における交通安全教育の指導者が、より効果的に安全運転教育を行うための参考資料として役立つように制作しました。DVD映像と共に、この指導ガイドを活用していただければ幸いです。

## 1. 視聴覚教育の事前資料準備

### (1) 事前準備の必要性

視聴覚教材は、そのまま研修生に視聴させれば交通安全教育の効果が発揮されるというものではありません。様々な交通安全教育の手法がありますが、視聴覚教材の最大のメリットは内容を映像でわかりやすく表現して伝えることができることです。しかし、その一方で、受講者が理解しているかなどに関係なく映像が進んでいく一方通行的な教育である短所も持っています。

この短所を補うのが安全教育指導者の役割です。単に視聴覚教材を見せるのではなく、注意すべき点を補足、強調するなどの工夫が必要です。また、視聴覚教材を補う最新の情報を用意して補足説明を行うことも大切です。

視聴覚教材を使用した教育は、受講者が消極的になる場合もあるため、視聴者を積極的に参加させる状態を作り出す工夫も必要です。視聴後の討議、感想文等の時間を設けるなども有効です。

### (2) 関連統計資料等の準備

視聴覚教材には、最新の情報がありませんので、必要に応じて関連の情報を集め、DVD視聴前後に最新の状況を説明してください。

交通安全のための調査研究資料や交通事故に関連した統計情報等は、以下のホームページが代表的なものです。これらのホームページで事前に関連情報を収集しておくことも大切です。

交通安全に関する調査研究報告書、統計資料を掲載しているホームページ	
警察庁（統計）	<a href="http://www.npa.go.jp/toukei/index.htm#koutsuu">http://www.npa.go.jp/toukei/index.htm#koutsuu</a>
自動車安全運転センター （調査研究ライブラリー）	<a href="http://www.jsdc.or.jp/library/index.html">http://www.jsdc.or.jp/library/index.html</a>
国土交通省 （自動車総合安全情報）	<a href="http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/index.html">http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/index.html</a>
公益財団法人交通事故 総合分析センター	<a href="http://www.itarda.or.jp/">http://www.itarda.or.jp/</a>
同上（調査研究報告書）	<a href="http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=2">http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=2</a>
同上（交通統計）	<a href="http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=4">http://www.itarda.or.jp/materials/publications_free.php?page=4</a>

## 2. チャプターごとの指導ポイント

本 DVD は5つのチャプターに分かれています。ここでは、それぞれのチャプターの指導ポイントを紹介しておきます。

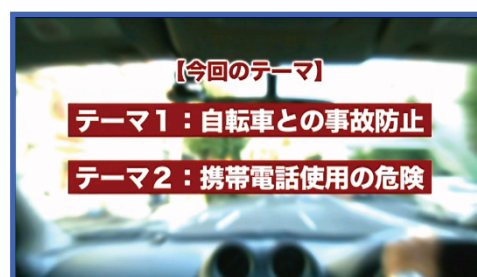
### チャプター1 (6分5秒)

#### オープニングから信号無視自転車との事故防止

##### ■■ 信号待ちからの発進方法 ■■

#### (1) オープニング

このDVDのテーマは、「自転車との事故防止」と「携帯電話使用の危険」の2つです。「自転車との事故防止」は、さらに「信号無視自転車との事故防止」と「自転車との出会い頭事故防止」の2つで構成されています。



最初のチャプターは、「信号無視自転車との事故防止」の第1テーマである「信号待ちからの発進方法」で、信号の変わり目に信号無視をして飛び出してくる自転車との事故防止です。視聴者の中には「信号無視をする自転車の方が悪い」と主張し、無謀自転車との事故防止に積極的でない運転者が含まれている可能性があります。相手が信号無視自転車であっても事故を起こせば、業務を中止して事故処理に対応しなければならず、場合によっては当人だけでなく職場内の多くの人に迷惑がかかります。とにかく、事故に巻き込まれる可能性を限りなく少なくすることが大切であることを強調して指導してください。

#### (2) 信号待ちからの発進方法

信号待ちをしていて青信号になると、青信号であれば安全と考えて左右の安全を確認せずに発進するドライバーが多く存在します。しかし、映像でみるように、信号無視をしてくる自転車が多く存在するのが現状です。特に自動車側の信号が青に変わった直後に、赤信号を無視して横断してくる自転車が多く存在します。



青信号だからといって油断せずに、信号が変わった直後に発進せずに、十分に左右を確認してから発進するように指導してください。何かの事情で急いでいるときほど、信号が青

に変わると飛び出し発進しがちです。急いでいるときであっても、慎重に左右を確認することを習慣づけるようにしてください。

トラック等の視界を遮るような自動車と並んで信号待ちしているときは、発進時に特に注意が必要です。大型車等より先に発進しようとする、車の陰から自転車等が飛び出してくることがあります。あわてて大型車等より先に発進しようとせず、落ちついて他の車の陰の安全を確認してから発進するように指導してください。



### (3) 青信号の意味

弁護士の解説にあるように、青信号は「進め」の意味ではなく「直進し、左折し、又は右折することができる」です。あくまでも「安全が確認されれば」、直進、右左折ができるという意味であることを強調してください。



## CHAPTER 2 (5分8秒)

### 信号無視自転車との事故防止

#### ■■ 右左折の方法 ■■

#### (1) 右折の方法①

「右折の方法①」では、一般的な右折時の注意点を紹介しています。右左折する場合は、漫然と交差点に向かうのではなく、交差点に向かいながら事前に同じ方向に進む自転車等の情報を集めておくことが重要です。また、車にはピラーやミラーによる死角等が多くあります。これらの死角は、顔を動かして、直接目で見て安全確認をする必要があります。



実際の車で、ピラーやミラーによる死角等を確認させることも有効です。

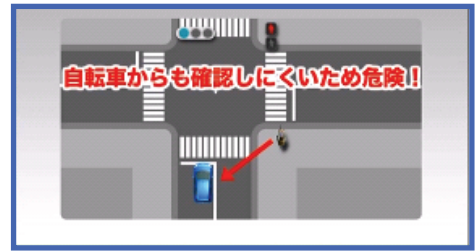
#### (2) 右折の方法②

「右折の方法②」では右折小回りの危険性を中心に右折時の注意点を紹介しています。右折小回りをする、と交差点全体の安全を確認しにくいこと、速度が速くなりがちで、十分な安全確認をしないまま右折を開始



しがちであるなどの危険があります。右折小回りは、先急ぎ傾向の強い運転者に多く、また、なかなか自覚しにくい右折の癖です。同乗者がいるときに、相互にチェックしてもらうように指導すると効果的です。

このDVDでは、右折小回りの開始位置では交差点全体の安全を確認しにくいこと、また、横断歩道に進入しようとしている自転車等にとって右折小回り開始位置は確認しにくいこと、速度が速くなりがちなことなどを指摘しています。右折時には、ゆっくりと、できれば交差点中央手前で停止して交差点全体の安全を確認してから右折を開始するように指導してください。



### (3) 左折の方法

左折でも右折と同様に、事前に同じ方向に進む自転車等の情報を集めておくことが重要です。DVDでは紹介していませんが、左側に車を寄せずに左折する自動車を多く見かけますが、左側巻き込み事故の原因になりますので注意するように指導してください。

## CHAPTER 3 (4分17秒)

### 信号無視自転車との事故防止～自転車との出会い頭事故防止

#### ■■ 飛び出し自転車との事故防止 他 ■■

#### (1) 横断歩道への自転車の飛び出し

DVDのドライブレコーダー映像にあるように、十分に安全確認をしないで飛び出してくる自転車をよく見かけます。横断歩道では飛び出してくる自転車等があっても、十分に対処できるようにしなければなりません。十分に見通しが良く、安全を確認できる状態でなければ、徐行すること、アクセルからブレーキの上に足を移動して緊急事態に備えた「構えの運転」をするように指導してください。



DVDでは紹介していませんが、駐車中や渋滞中の車の陰からの飛び出しも、よく経験することです。このように、左右の見通しの悪い状態での走行に十分に注意するように指導してください。

## (2) 交差側一時停止道路の通過方法

いつも通り慣れている道路だと、交差側の道路に一時停止があるなど道路についての情報がわかってきます。この通り慣れた道路が危険の原因になることがあります。交差側の道路に一時停止があるので飛び出さないだろうといった油断が危険です。自転車にも一時停止の義務がありますが、自転車は道路交通法を知らない子供や免許を持たない人も利用します。このような自転車に一時停止してくれるだろうと、安易な期待をしてはいけません。



たとえ、交差側の道路に一時停止があっても、交差点を追加するときは、ブレーキの上で足を移動して緊急事態に備える「構えの運転」が大切です。

弁護士のコメントにもありますが、自転車側に一時停止があり、四輪車側に規制がない交差点で事故が発生した場合、民事訴訟では四輪車側に6割程度の過失割合を認めることが多いようです。万一、四輪車側に速度違反などがあれば、さらに高い過失割合が認められます。「交差側走路に一時停止があるから」といって、絶対に油断してはいけません。



## CHAPTER 4 (3分10秒)

### 自転車との出会い頭事故防止

#### ■ ■ 駐車場からの発進 ■ ■

## (1) 駐車場(路外施設)からの発進

右のような駐車場等の路外施設から車道に出るときに、右から来る車に気を取られて、自転車や歩行者等に気づかずに、事故になるケースが多く発生しています。車だけに気を取られずに、左右の歩道から来る自転車等にも十分に注意する必要があります。



また、路外施設から出るときに、歩道の手前で一時停止をしないか、しても車の先を歩道に突き出して一時停止する車を多く見かけます。このようなドライバーの言い訳に多いのは「歩道の手前で一時停止しても見通しが悪くて安全確認ができないから」といったものです。

一時停止は自分のためだけでなく、相手に自分の存在に気づいてもらうという重要な意味があります。DVDで示すように、一時停止位置で停止すれば、車側からは相手を確認できなくても、相手からは車を確認できる状態になります。自分の車を発見した相手に対応できる時間を与えるため、停止したまま数秒間待ちます。一時停止は相手に気づいてもらう他に、接近している自転車や歩行者をやり過ごす、車の速度を抑えるなどの効果もあり、必ず一時停止を実行するように指導してください。



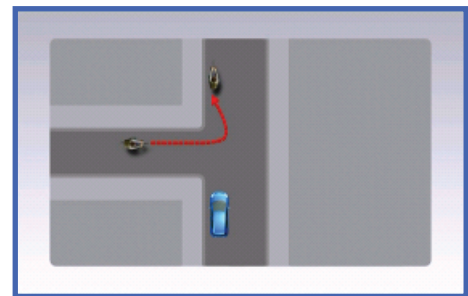
一時停止は相手に気づいてもらう他に、接近している自転車や歩行者をやり過ごす、車の速度を抑えるなどの効果もあり、必ず一時停止を実行するように指導してください。

なお、歩行者や自転車が道を譲ってくれても安心して発進しないことです。多くのドライバーが相手も譲ってくれると思って同時に発進した経験を持っているものです。基本は車側が道を譲ることです。

## (2) 側道からの飛び出し自転車

脇道から車道中央付近まで膨らんで出てくる自転車と事故になりかけてヒヤリとしたりハッとしたりすることが、よくあります。

このような自転車との衝突を避けるためには、危険な箇所では、あらかじめ徐行すると共に、足をブレーキの上に置く「危険への備え」をしておくことです。また、夕暮れなどではライトを早めにつけて自動車の存在を相手に認知しやすくするなどの配慮も有効です。

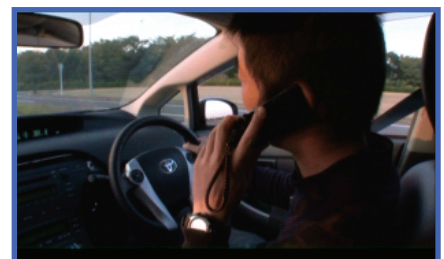


## CHAPTER 5 (6分26秒)

### 携帯使用の危険

#### (1) 携帯電話使用の影響

運転しながら携帯電話を使用することはもちろん、メールをやりとりするために画面を注視することも禁止されています。このことは、ほとんどのドライバーが知っていることと思いますが、「急いでいるから」や「それほど危険ではないから」といった認識で、携帯電話を使用してしまうドライバーが後を絶ちません。



携帯電話使用に関しては、運転中は絶対に使用させないという指導をすることが大切です。携帯電話に着信やメールが到着すると、「誰からだろう」と気になってしまい、つい、携帯



電話を手にしがちです。運転するときは携帯電話の電源を切るのを基本として、安全な場所に停止してから、携帯電話の電源を入れて確認をするように指導してください。

## (2) 研究者のコメント

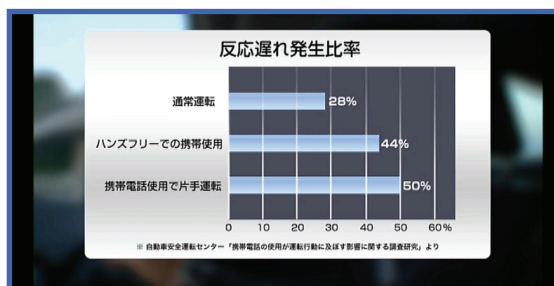
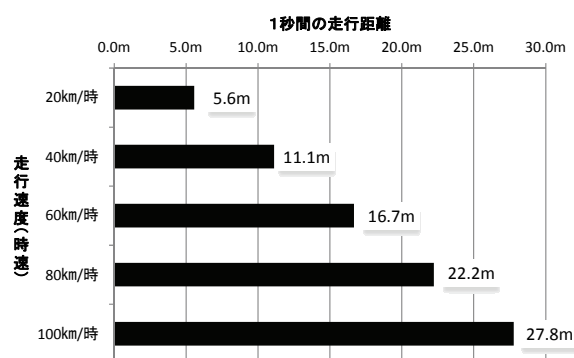
日本自動車研究所安全研究部の内田氏の研究によれば、会話をしていないときは左右の注視点が一致していたものが、会話を始めると左右の注視点にズレが発生します。医療機器として使用されているMRIによる分析では、このように左右の視点のズレが発生しているときは、脳、特に視覚野の活動が低下していることが確認されています。

内田氏の研究では、会話中は反応時間が長くなることが確認されており、運転中の携帯使用は極めて危険なことが明らかです。

DVDでは紹介していませんが、携帯電話等を使用して反応時間が1秒遅れると、停止距離が、右の図のように伸びてしまいます。時速 100 km でブレーキが1秒遅れば停止距離が 30 メートル近く伸びてしまうことになります。運転時の携帯電話使用は絶対にやめましょう。

自動車安全運転センターが実施した研究では、ハンズフリー装置を使った会話中にも反応遅れ※が増加する事が確認されています。ハンズフリーであれば安全と考えないで、ハンズフリー装置での会話も危険ですので、十分に気をつけましょう。

※「反応遅れ発生比率」とは、走行実験でブレーキ反応時間が1秒以上の比率です。



## (3) エンディング

皆さんの事業所には、少しでも自分の側が優先の状況でヒヤリとしたりハッとした体験をすると、「自分の方が優先だった」とか「相手が注意していないからだ」と相手の責任ばかりを追求するドライバーは、いないでしょうか。自分の優先権を主張するドライバーが多いものですが、実際には自分もルール違反をしていることがほとんどです。

ヒヤリとしたり、ハッとした体験をしたときには、どのようにすればそのような体験を防げるかを考えさせるように指導してください。

### 3. 指導者が行うまとめのポイント

このDVDのエンディングは、DVDの要約(まとめ)ではなく、視聴したドライバーが、今後心掛けていただきたい内容を中心としました。したがって、DVDの内容のまとめは、指導者が行って頂きたいと考えています。

効果的な交通安全教育には、それぞれの事業所の交通安全指導者が、自事業所の状況に応じて、まとめをしていただくのが重要と思われませんが、一般的には、次のような要点をまとめとすることが考えられます。

#### (1) 全体的な指導ポイント

このDVDでは「自転車との事故防止」と「携帯電話使用の危険」を取り上げましたが、ここでは、とにかく事故を起こさないことが重要であると強調することです。事故が発生すれば、本人の時間が取られるだけでなく、場合によっては、事業所の他のメンバーも対応に追われ、業務に支障が出ることとなります。「相手の方が悪い」や「制度的に許されていることだ」といったことを主張しても、事故を起こせば、費用、時間等を費やさなければならないことは明らかです。事故に関して自分の責任の軽重はともかく、事故を起こさないことが何よりも重要であることを強調してください。

##### 【全体的な指導ポイント】

- 事故を起こせば、たとえ相手の過失の方が大きくても、自分や職場の人の時間や資源が費やされる。
- どのような事故であって、事故に遭う(起こす)確率を極限まで小さくするのが上手な運転である。

#### (2) 「信号無視自転車との事故防止」のポイント

要約すると、次の3点が指導のポイントです。

- 発進時は、青信号に変わっても、左右の安全を確認してから発進する。
- 大型車等で横断歩道の視界を遮られているときは、特に慎重に安全確認をする。
- 右左折時には、交差点方向に向かう自転車等の存在など、事前情報を収集し、右折小回りをしないこと。また、左折時には車を左に寄せて、左巻き込み事故に注意すること。

### (3)「自転車との出会い頭事故防止」のポイント

要約すると、次の3点が指導のポイントです。

- 交差点付近では徐行すると共に、足をブレーキの上に置く「危険への備え」運転をする。
- 交差側道路が一時停止の交差点でも、十分に安全確認をする。
- 一時停止は、完全に遂行すること。自分の安全確認のためだけでなく、相手の気づきのためと考えること。

### (4)携帯電話使用の危険

要約すると、次の2点が指導のポイントです。

- 運転中の携帯電話使用は、絶対にしないこと。運転中は電源を切ることを基本にする。
- ハンズフリー装置での会話であっても反応時間の遅れが発生することが知られており、ハンズフリー装置での会話にも気をつけること。

## おわりに

ここで示した指導ガイドは、あくまでも参考例として示したものです。みなさんの事業所の状況によって指導のポイントは変わってきます。まず、指導者が所属する事業所の事故の現状や交通安全上の問題を把握し、どのような点を強調して指導するかを明確にすべきです。指導者が自事業所の現状とDVDの内容を重ね合わせて指導することが、より有効な交通安全教育とするために重要なことです。

本DVDを利用して、指導者の皆さんが効果的な交通安全教育を実践していただければ幸いです。

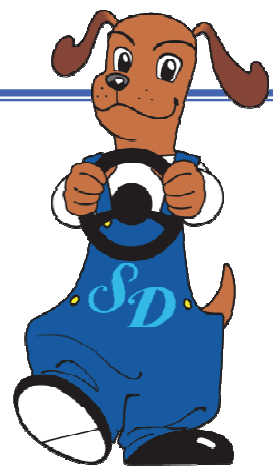


安全運転をつくろう。

**自動車安全運転センター**

<http://www.jsdc.or.jp/>

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番6号



SDワンダくん

※この著作物の著作権は、自動車安全運転センターに属します。